



北川 宣介

『恵美酒宮 天満神社』

恵美酒宮 天満神社では10月 8日・9日の両日、恒例の勇壮な秋祭りが、今年も例年通り執り行われました。

江戸時代から飾磨の津、橋東と呼ばれた地域を中心とする氏子8地区（東堀・都倉・御幸・栄町・玉地・清水・北細江・小瀬）で、それぞれ飾られた屋台が町中を巡幸し、宮入りをします。見せ場は『台場練り』（だいばねり）といって、舁き手（かきて）約80人のうち24人が屋台の台場下に入り、肩で屋台の泥台を昇く力技です。飾磨の津は千石船などの荷物を岸へ担ぎあげる仕事に関わる人が多かったので、力自慢の人達がそれを示したことが始まりと思われます。この神社は戎宮（えびすのみや）とも言われ、昔は事代主命（ことしろぬし）を祭神とし、漁獵の神、航海安全の神として恵美酒や細江の人たちから崇められていました。

私が興味を持っているのは、この神社に奉納された西洋式帆船『神護丸 絵馬』で、奉納者は姫路藩船手組の4人です。慶応3年（1867年）徳川幕府は外国船が日本沿岸へ出沒することにより大船の必要を認めて、実に115年ぶりに大船禁止令を解除しました。

安政年間に姫路藩でも西洋式船舶の建造計画が持ち上がりました。この計画を提案したのは藩お抱えの国学者、秋元安民です。ちょうど姫路藩では、遭難・漂流中にアメリカ船に救助された船乗り4人が帰国してきたところで、その対応係だった秋元が漂流民の知見を活用することを思い立ったのです。この4人の漂流民（清太郎・源次郎・甚八・喜代蔵）は、ジョセフ彦（「新聞の父」と言われる、加古郡播磨町出身）や仙太郎と同じ「栄力丸」の乗組員で、上海在住の音吉の援助で帰国に成功していました。うち清太郎と源次郎は士分に取りたてられて、本莊善次郎と山口洋五郎を名乗っています。安政2年（1855年）に建造計画がまとまり、藩は源次郎を矢倉格、清太郎を矢倉格取扱沖船頭として、建造作業に携わらせることにしました。

飾磨港は銀の馬車道の鉱石積み出し港となりましたが、その前は姫路藩の船手組があり、千石船の寄港など古くから栄えた港町です。奈良時代の飾磨の市は現在の市郷近辺かと思われます。

舁き手（かきて）：屋台を担ぐ男達の事。博多祇園山笠でも山笠を担ぐ男達の事をこう書く。

参考資料

船 須藤 利一 法政大学出版局 1968 年
 神護丸の絵馬 姫路市指定文化財 天満神社（恵美須神社）姫路市飾磨区
 神護丸の詳細は以下のホームページを参照してください。
<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/ship/3170.htm>



恵美酒宮



勇壮な秋祭り



神護丸の絵馬



千石船

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！

『鉄のふしぎ博物館』

来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

鉄を見る目がかかりますよ。
 ぜひお越しください。



黄銅鉤に
磁石がツイタ

一年間ご愛読ありがとうございます！！来年も挑戦します。ご支援よろしくお願ひします。